

建設防災 ボランティアニュース 第67号

- 目次
- ・ 初動対応訓練
 - ・ 砂防講習会
 - ・ 建設局長による感謝の会
 - ・ ミニツアー通信

建設局初動対応訓練

2月7日(水)午前7時から12時まで、「建設局職員の災害発生時における対応能力向上を図る。」「震災対策の手引きの改訂内容を踏まえて実施する。」を目的として建設局初動対応訓練が実施され、局からの協力依頼に基づき、各班から昨年より3名多い79名の協会員が参加しました。

事務所	参加者	事務所	参加者
一建班	6名	西建班	6(3)名
二建班	7名	南東建班	6(3)名
三建班	7名	南西建班	8(3)名
四建班	10名	北南建班	5名
五建班	3名	北北建班	5名
六建班	6名	東部公園班	5(2)名
		西部公園班	5名
合計	79(11)名		

()内：参集訓練参加者内書

訓練は「東京湾北部を震源とする大規模地震(マグニチュード7.3、震度6以上)が午前7時00分に発生し、都内で広域的な被害が発生している。」との想定で行われ、今年度のポイントは「訓練内容の簡素化」、「事務局の事前準備を最小限にし、実践的な訓練にする。」、「情報集約や連絡方法の確実性を高める。」の3点で、臨場感のある訓練となりました。

各会員は事務所の指示に基づき様々な部署で活動しました。今年は天候にも恵まれ、より実践的な訓練を経験できました。事務所との調整、会員への連絡などに御尽力いただいた各班のリーダー、訓練に参加された協会員、そしてなによりご

指導頂いた、所長を初めとする各建設事務所の皆様に感謝いたします。

担当理事 久保田元久

事務所班からの報告

東部公園班

東部公園班は、応急対策班として鈴木進、佐藤清美、角田勲、小林和雄、上杉俊和の5名が参加しました。

鈴木、佐藤は、4km圏内ということで、7時30分の参集から参加、その後、10時15分から4km圏外の角田、小林、上杉が参加しました。当日の訓練場所上野恩賜公園は、カンザクラがすでに開花はしていましたが、かなりの冷え込みのなか、朝から話題のシャンシャンを見学するため、多くの来園者で賑わっていました。



指示を受ける協会員

10時30分には応急対策班として、5名全員が現場点検に徒歩で出動、園内竹の台広場や清水観音堂付近等において、樹木の倒壊、園路状況調査等行い、事務所本部に報告をしました。報告は、現場から MCA 無線機を使用しましたが、一部の班は操作の不案内により、結局携帯電話での対応となったようです。日頃の無線機の訓練の重

要性を痛感しました。

その後本部の事務所に戻り、別棟第1会議室にて本部長の細川東部公園緑地事務所長より、繰り返し訓練することが重要であることなど参加者に対し、講評がありました。最後は、参加者一同恒例の非常食の試食をし、訓練終了となりました。



細川所長と協会員

東部公園班 上杉俊和

一建班

今年の初動対応訓練には、藤野、平田、新井、佐野、藤田、田所の6名のボランティアが応急対策班として、班長の補佐、現場点検に従事しました。

「天災は、忘れた頃にやってくる」と言われますがまさにその通りで、我々は「のど元過ぎれば熱さを忘れる」ように、様々な災害や事件等の恐ろしさ、被害の甚大なことの記憶は速いスピードで遠ざかっていき、とかく用心を怠りがちとなります。しかしながら、最近の地震災害、台風・ゲリラ豪雨等による浸水被害・土砂災害の多さは、我々の記憶に生々しく残り続け、忘れる暇などないようです。

最近起こった震度7クラスの大地震では、阪神淡路大震災(平成7年1月)、新潟県中越地震(平成16年10月)、東日本大震災(平成23年3月)、熊本地震(平成28年4月)と、続いて発生しています。また台風や集中豪雨などによる浸水被害、土砂災害も毎年のように日本の各地で発生しており、火山噴火も忘れる間もないように発生しています。

災害立国日本の厳しさを改めて知る思いです。したがって、災害時の被害の認知と復旧措置の対応訓練も、必然的に迅速・的確な対応かつ実地的なものとして、真剣に行われてきています。

建設局初動対応訓練に参加された職員の方々は、粛々と緊張感に満ちて担当業務に携わっておられることが伝わってきます。また、震災対応の習熟度と臨機の対応力は格段に上がってきていると感じました。

新谷所長から、「なにができなかったかをよく考えて、対応力を高めてほしい」との訓示は、いつ起きてもおかしくない東京の直下型地震災害を念頭に置いている職員一人ひとり、そして建設防災ボランティアの面々に自分の行動を真剣に振り返させたと思います。

建設防災ボランティアも、現職の時から培ってきた知識・経験の活用を図るとともに、災害時に十分な活動ができるよう体力・健康などの管理を怠ることなく、準備を整えることが求められることを、私も今回の訓練で再認識しました。訓練前日に制服、所持品等をチェックしたつもりでもいくつか見落としたものがありました。



新谷所長、小林副所長と協会員

今回の訓練で私たちは、現場点検担当として、河川担当は徒歩で、道路担当は自転車で点検現場に赴きました。実際に災害が発生した場合を想定して、転倒などしないよう周囲に注意をしながら一步一步踏みしめて歩くよう心がけたつもりです。みなさんのお役に立てるようになることは、まずは、自分自身に注意を心がけることからのだと知った次第です。

一建班 田所伸夫

西建班

防災ボランティア会員の清水、河合の2名とともに7時からの4km圏参集者として徒歩参集に参加した。当日は7時30分に自宅を出発し、参集経路である青梅街道など経路の周辺状況を確認しながら、事務所までの約1.7kmを歩いて参集した。先日来の降雪で、沿道にはまだ融け残った雪が積まれており、氷点下での訓練となった。

今朝のニュースでは、台湾での地震発生が伝えられていたが、災害はいつ起きるか判らず、白根山の噴火も記憶に新しいところだが、寒冷期の発災の場合は電気・ガス等のライフラインがストップすると、災害だけでなく寒さによる被害の拡大も懸念され、防寒対策の備えも重要と感じた。



現場対策班に出動を指示

事務所に7時52分に到着すると、すでに10名ほどの職員が参集しており、本部開設報告を局本部にされていた。参集経路の状況を報告し作戦班担当に就く。道路啓開協力業者からのファックスによる被害状況報告の確認と整理を行う。

業者から入った二件の被害状況報告に対し、その後の現場対応指示を行うとともに、本部へ速やかに連絡を行った。また、別件の連絡が入った被害現場へは、現場点検の必要性を本部に説明し、現場対策班に出動を指示する。

協力業者からの現場対応報告や現場点検班からの被害状況報告を確認、整理、報告をする中で交代要員と10時15分に引継ぎを行った。交代要員として防災ボランティア協会からは山縣、佐藤鉄、青木の三名が参加した。なお、稗田、佐藤肇の両会員は風邪のため止む無く欠席となった。



現場へ出動

参集訓練終了後、所長室において石坂所長と支援班が炊き出した非常用食料を試食・懇談した後に散会した。

西建班 谷村秀樹

南西建班

南西建班では、8名(吉田、高橋、矢野、井上、中込、老沼、林、堀内)の会員が参加しました。

午前7時からの安否確認に始まる前半の「参集訓練」には、南西建の職員37名と一緒に、作戦班総務担当(吉田)、応急対策班現場点検担当(高橋、矢野)の3名が、早朝より自宅を徒歩で出発し参加する。今回想定された被害箇所は、道路4か所に河川1箇所です。

午前10時になると後半戦に入り、「引継ぎ訓練」からは、本部長の片岡正英所長、副本部長に村上清徳副所長と職員の交代とともに28名、総勢36名が参加している。



指示を出す片岡所長

会員には本部より、作戦班総務(吉田、井上)、同道路(高橋、矢野)、同河川(中込)に応急対策班(老沼、林、堀内)が割り当てられ、計8名の新

陣容となった。前半からの引継ぎ交代も無事に行われ、後半の訓練は、本部長の片岡所長の被害状況報告への適切な対応もあり、手際よくスムーズに進む。会員もほぼ毎回参加しており、経験と知識を活用した助言で、それなりに訓練の一助になったとすれば幸と思っています。

実際に物事は、訓練した以上にはできないと言われている。つまり訓練がその儘が現れてくるのであって、訓練以上のことを望んでも実現できません。火事場の馬鹿力とも言われ、自然と行動ができるように思われますが、訓練よりも巧くできないことをよく聞きます。たとえば剣道の試合でも、前から盛んに稽古をする。そうして稽古を積んだ方が勝ち、稽古しない方が負けるので、猛烈な稽古をします。決して無駄になるものではありません。

とにかく訓練によって、非常時の際に役に立つ活動の急所を習得する必要がある。マニュアルどおりではなく、訓練によって得た勘を鍛え、そこまでできるように訓練を積み重ねなければならない。日頃からの訓練こそ、非常時の役に立つのではないかと思う。



片岡所長、村上副所長と協会員

「初動対応訓練」のメは、本部長の片岡所長から建設局長の講評とともに訓示がなされた後、支援班によるアルファ米のおこわの炊き出しをいただき、本日の訓練も滞りなく無事に終了しました。参加された職員、会員の皆様、お疲れ様でした。

南西建班 中込 孝仁

西部公園班

去年は資料等が事前送付されず、班編制や具体的な活動がわからず苦労しましたが、今年は西部公園の担当者から早め早めに連絡をいただき、資料も10日ほど前にすべて届いたので訓練の内容がよくわかり、助かりました。

さて西部公園班は過去最高の動員数で、伊藤精美(L)、丹野修(SL)、小口健蔵、二宮克弘、湯本勝の5人で対応しました。

10時からの引き継ぎで応急対策班の編制と調査ルートが示され、前半の点検での措置状況などを引き継ぎました。出発に当たっては園内の地図なども用意していただき、至れり尽くせりの準備がなされていました。特に本番の災害時では園内の地図は必需品となります。



協会員と西部公園職員

10時15分 A 班(小口、丹野、湯本)は井の頭池の周辺の点検に、B班(伊藤、二宮)は西園(ジブリ美術館方面)に、それぞれ分かれて出発しました。出発時には MCA 無線のテストも兼ねて本部との交信を試みましたが、本部の体制が整っていなかったためか A 班とB班の交信が確認できただけで終わりました。どうやら本部の基地局では外部アンテナがないため、電波状況が悪く、電波が届きにくいようでした。無線機の使用方法については事前にマニュアルが配られていたので、操作に戸惑うことはありませんでした。

各班はそれぞれ想定された被害状況を確認し、A 班は想定負傷者を本部に運ぶことを連絡し、B 班は異常ないことを無線で連絡しました。このときは各班とも本部との交信はスムーズに行えました。

10時45分帰所し、それぞれ対応状況を現役の班長が本部に報告して訓練を終了しました。その後水で戻したアルファ米の試食をした後、西部公園緑地事務所の大道所長と懇談し、解散しました。

西部公園班 伊藤精美

二建班



島津所長と協会員

三建班



大八木所長を中心に検討



支援班出動

四建班



真剣に打合せに臨む協会員



原田所長、金子副所長と協会員

五建班



出動の指示を受ける協会員



齊藤所長、松村副所長と協会員

北南建班



打ち合わせ中の会員

六建班



坂口所長、小野副所長と協会員



北北建班



奥秋所長、佐藤副所長、金森主任と協会員



各々の持場で活動

南東建班

南多摩東部建設事務所の局初動対応訓練の参加者は、総勢 44 名【職員38名、ボランティア6名(武内、杉本、矢内、本間、若尾、柴田、以下敬称略。)】で、午前7時30分から動き出す先発班と、10時15分からの後続班の2つに分かれ実施しました。



活動する会員（１）

まず、午前7時に発災したとの一報のもと、本人、家族の安否確認後、早出の参加者は7時30分に自宅を出発し参集しました。建設局本部設置から2分遅れの8時10分には南東建・所本部（下園本部長、原田副本部長）が設置され、直ちに初動体制に入りました。引き続き参集してくる参加者は、あらかじめ定められた作戦班（道路担当：柴田、河川担当：杉本、総務担当：ボランティアはなし。）、応急対策班（矢内）の分担で配置につきました。

作戦班総務担当は、直ちに所体制確立状況について局あて報告しました。道路担当では、午前9時に被害1の案件指示が原田リーダーから応急対策班 A 班（矢高見沢班長）にあり、直ちに、レスナビや MCA 無線、カメラ等の機材をもって現場に向かいました。また、9時前後には管内の協力業者から続々と道路点検結果が FAX で入り、道路清掃業者からも点検結果の FAX 報告が入りました。

次いで、9時25分頃、被害2の案件指示が河川担当・外崎リーダーから応急対策班 B 班（宮内班長）になされ、現場に向かいました。先に出動した応急対策班 A 班からは、現場からの一報が入りましたが、レスナビが不調のため、残念ながら写真画像報告が得られず、また MCA 無線による直接報告も不調で、最終的には携帯電話で状況報告がされました。

本報告を受け所の作戦班道路担当では、道路の応急復旧について協力業者に指示依頼しました。また、河川担当に対しても応急対策班 B 班から MCA 無線により現場被害状況について報告さ

れ、帰所後に状況写真と合わせ詳細報告が行われました。

9時30分頃には被害3について、道路担当原田リーダーから、応急対策班 C 班（渡辺班長）に出動指示があり、現場に向かいました。その後、応急対策班 C 班からは現場からレスナビ等による報告がされました。次いで、午前10時頃に、被害4について案件指示報告が入り、作戦班河川担当外崎リーダーに被害状況が報告され、その後局本部に報告されました。



活動する会員（２）

次いで、10時20分頃になると後続班への引継ぎが行われ小松本部長、斉藤副本部長による新体制のもと、会員は、作戦班（道路担当：本間・柴田、河川担当：杉本、総務担当兼支援班：武内）、応急対策班（若尾）に配置されました。

10時30分には、被害5について作戦班道路担当の木下リーダーから応急対策班 D 班（田口班長）へ出動指示があり、自転車により現場に向かいました。また、被害6について河川担当の秋元リーダーから、応急対策班 E 班（田中班長）に出動指示がありました。その後、応急対策班 E 班から、MCA 無線により報告があり、作戦班河川担当から現場被害状況に対応するとともに、所定の作業終了後、帰所するよう指示が出されました。

次いで、11時過ぎに応急対策班 D 班から、MCA 無線とレスナビにより状況報告があり、これに対し、作戦班から協力業者へ応急復旧作業を依頼するとともに、放置車両の撤去等については協力業者及び警察消防等に協力要請を行い、D 班には帰所の指示をしました。作戦班の総務、道路、河川の各担当とも、11時30分頃までには所

定の報告書類の整理や局あての報告を行うとともに、優先度の高い A、B の案件についての措置終了を連絡しました。

そして、11時30分頃に西倉建設局長と各所の所長との Web 会議が開かれました。会議終了後、小松所長から局長の講評概要について、「建設局は365日都民の安心、安全の確保に向け日々努力中だ。本日の訓練には約千人の参加を得て実施したが、参加職員及び防災ボランティアの皆様へ感謝する。併せて、今回の訓練では事前準備を極力減らし実施したことから体制確保に時間要した。今後、本日の経験を活かして発災時等に活用してもらいたい。」等の報告がありました。

11時45分には応急対策班 D 班の帰所報告を確認後、小松所長から「本日の訓練が無事終了でき、参加職員及びボランティア各位へ感謝する。また、本日の訓練を得た本部における情報共有の重要性や現場出動の迅速化の必要性を感じた。」等の講評・挨拶があり、訓練は無事終了しました。



小松所長、斉藤副所長と協会員

この後、参加ボランティア全員は小松所長、斉藤副所長と記念撮影し本日の全ての予定を終えました。帰路には、いつもと同様に某所において、参加者全員による昼食懇親会を行い、次回への英気を養いました。ご参加のボランティアの皆様、並びに小松所長はじめとした所の関係各位、他事務所からの参加職員の皆様、大変お疲れ様でした。

南東建班 柴田賢次

砂防講習会を開催しました

平成29年12月13日(水)、西建管内において砂防講習会としての現場見学会が開催されましたので、当日の状況をご報告いたします。

砂防講習会は、東京都河川部などの方々に講師をお願いし、東京都の砂防対策や危険箇所の実情・取組みなど、最新の状況を学ぶ機会として毎年開催しております。

平成29年度の砂防講習会は5年ぶりに、西建管内の「海沢(うなざわ)川砂防ダム」と「藤原地区急傾斜地事業」の現場見学会を行いました。当日は、杉浦会長をはじめとして17名の会員が参加し、河川部からは防災課の島田修課長代理(砂防担当)にご同行いただきました。

8時50分に貸し切りバスで都庁を出発し、途中、「青梅鉄道公園」に立ち寄り、青梅市の「奥多摩清流の宿 おくたま路」で早めの昼食をとったあと、最初の見学地である「海沢川砂防ダム」に向かいました。車中、杉浦会長からは、「かなり寒いので無理をしないように」とご挨拶があり、また、島田課長代理からは、各見学箇所について丁寧なご説明をいただきました。



海沢川砂防ダムにて

「海沢川砂防ダム」の現場では、西建の石坂所長、出戸工事第二課長、廣瀬課長代理、原田課長代理の皆さんが対応にあたって下さいました。石坂所長からは、「年間19億円程度を投入し砂防事業を進めているが、まだまだ事業を行うべき箇所が残っており、忌憚のないご意見をいただけ

れば有難い」とのご挨拶をいただきました。また、出戸課長からは、西多摩地域は約7割が山間部であることからハード、ソフトの両面から土砂災害対策を進めていることなどを、具体的な数値をあげてご説明いただきました。

その後、現場全体を見学しました。「海沢川砂防ダム」は奥多摩町海沢地内に位置し、主にえん堤と流路工からなります。このうち、えん堤は、えん堤高9.5m、堤長71.0mで、工法的には三宅島や神津島などで実績のある「ダブルウォール」を採用し、工期短縮、経済性、残土処分などに対する有利性などを追求した現場だと感じました。えん堤の施工は既に終了しており、今後の施工は延長170mわたる流路工の方に移る状況でした。全体的に周辺の地形に対しバランスよく施設が計画されており、土石流対策を考える上で大変参考になりました。



藤原地区急傾斜地事業

次に、檜原村にある「藤原地区急傾斜地事業」を見学しました。この現場は、平成19年9月の台風第9号の際に、幅90m、高さ110m、平均深度2mの規模にわたって崩落したことにより始まった事業です。幸いにも人的な被害はなかったとのこと。対策工事は、平成19年の崩土除去などを経て、同年から法枠工・グランドアンカー工等で斜面对策を実施しており、平成30年度をもって完了する予定とのこと。現場は、斜面高が110mと高く、傾斜角45度の急傾斜地で、東京都がこれまで実施した急傾斜地事業の中でも最大級のものだろうと思われました。また、法枠面の緑化も進み、周辺の自然とも調和しつつあるのが印象的

でした。

今回の現場見学会を終えて、西建管内の広さを実感するとともに、数多くの危険箇所が存在する中で重点的、継続的な土砂災害対策事業の必要性を改めて感じた次第です。お世話になった河川部の皆さん、また、石坂所長をはじめ西建の皆さんに厚くお礼を申し上げます。

四建班 平野敬治



建設局長による感謝の会

平成30年1月19日午後6時から都庁第二庁舎4階において、会員71名と建設局幹部の皆様29名、計100名の出席のもと、「建設局長による感謝の会」が開かれました。



会は、荒井総務課長の司会で始まり、西倉局長からは初めに東京都建設防災ボランティア協会の日ごろの様々な活動について感謝の言葉が述べられ、インフラ整備の重要性など、

建設局事業について説明をされました。次に当協会の杉浦会長から協会発足から20年経ち、今後の20年に向け心新たに取り組んでいきたいと挨拶がありました。

片山次長の乾杯のご発声により、参加者全員で声高らかに乾杯の後、差し入れていただいたお酒の紹介とともに懇談に入りました。皆さんお酒が進むにつれ大いに盛り上がり、最後に、三浦道路監から中締めのご挨拶を頂き、皆名残を惜しみながらお開きとなったようです。





挨拶する杉浦会長と建設局幹部



昔の思い出、最近の都政で盛り上がる会場

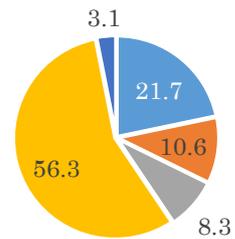
ここで、ようですと書いてあるのは、当原稿を担当している米田は当日インフルエンザに罹って欠席しており、録音音源で内容を確認しながらの作業となりました。当日の臨場感が伝わっていないとすれば、このことが原因であり、会員の皆様方にはお許し頂きたいと思えます。

昨年は大きな災害が各地で発生しましたが、今年に入って草津白根山の噴火があり、数年に一度といわれる寒波も到来しました。また、東京にはいつ地震が発生してもおかしくないと言われ続けています。今年が災害の少ない年であることを祈るばかりです。

さて、今年に入って内閣府から「防災に関する意識について」の世論調査結果が発表されました。その中で特に目を引くのは、自助、共助、公助に関する国民の意識の変化です。



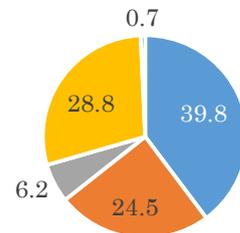
平成25年12月 (%)



- 自助
- 共助
- 公助
- バランスよく
- その他



平成29年11月 (%)



- 自助
- 共助
- 公助
- バランスよく
- その他

平成 29 年 11 月調査結果を平成 25 年 12 月調査と比較すると、災害が起こったときに取るべき対応として、「自助」に重点をおくべき」と答えた者の割合が 21.7%→39.8%、「共助」に重点をおくべき」と答えた者の割合が 10.6%→24.5%、「公助」に重点をおくべき」と答えた者の割合が 8.3%→6.2%、「自助」、「共助」、「公助」のバランスをとるべき」と答えた者の割合が 56.3%→28.8%となっています。

自分の身は自分で守る、あるいは近所の人と力を合わせて対応するという意識の高まりが見えます。相次ぐ災害を自らのことと考え、このような意識の変化になったのではないのでしょうか。私自身年齢を重ねていますので、いざというときに所属事務所で活動できないことも十分考えられますが、その際は、わが家を守り、近隣の人と力を合わせて災害に立ち向かいたいものだと思っています。

北南建班 米田秀男

ミニツアー通信

●ミニツアーの一時中断にあたって

平成29年御用納めの28日にミニツアー中断前の最後の案内が無事終わり、有志によるささやかな打ち上げパーティも行いました。



平成17年5月12日に第1回のミニツアー開始以来、約12年間の長きにわたり協会の協力ののもとに多くの見学者を迎え、最終日までの見学者数は8861人になりました。ちなみに協会の活動日数は555日、延べ2466名にもものぼります。諸先輩を始め多くの支援者に感謝したいと思います。勝ち関橋の長寿命化工事のためミニツアーは2年間中断されます。

平成16年に建設局からミニツアー案内の協力打診を受け、当時の担当役員による、各方面との協議、会員の意向調査、案内決定からの研修、安全対策の検討、マニュアルの作成等、並々ならぬ努力の結果、ミニツアーが開始されました。

当初18班集体87名で出発しました。私は第1回のトップバッターとして案内役を仰せつかり、今回の最終日28日にも案内役を務め感慨深いものがあります。



最終日12月28日の案内会員

案内開始以来、多くの見学者から賞賛の言葉を受け、メディアにも数多く取り上げられて、人気

のツアーになってきたと思います。テレビ、新聞、雑誌等で紹介されました。「小さな旅」「若大将のゆうゆう散歩」等の人気番組にも登場しました。

私はNHK国際放送の取材を受けたことがあり、友人が奇しくも海外でその番組を見たとのこと、大変驚きました。もちろん私の説明は吹き替えになっていたそうです。

ミニツアーの案内は5人体制で班を構成し、それぞれの班の中で工夫を凝らして案内をしているようです。今回の案内は実に48巡目でした。最初から活動していただいている方は、実に50回近い案内をしていただいたこととなります。大変御苦労様でした。

又、年一回の研修会で講師を迎え研鑽を重ねることも重要なことでした。各班の皆さんが一堂に会し研修会、その後の懇親会も和気藹々と和やかに行われていました。

案内の役に立ったのがガイドブックでした。平成17年4月版から現在では3冊目となっています。最初のマニュアルを作成された担当役員は大変なご苦労をされたのだと思っています。なお、平成27年にミニツアー10周年を記念し「活動10年間の歩み」の小冊子を作成しました。平成19年に国の重要文化財に指定され、平成29年には跳開部の機械設備が機械遺産に認定されました。勝ち関橋は貴重な土木遺産です。これを多くの見学者に案内することは我々の誇りでもあります。



御世話になった清水さん、井上館長、川久保さん

ミニツアーの中断は残念なことではありますが、勝ち関橋の長寿命化のためにやむを得ないことと思っています。2年間の中断ですが、再開後すぐに対応できるよう現在の班集体は維持をしていきたいと思っています。支援者の高齢化が進んでいま

すが、再開に当たっては皆様の参加意向調査もしたいと思っています。又、若い会員の確保も目指していきたいと思っています。なお、ミニツアー中断中も研修会・懇親会を開催し工事の進捗等の情報も共有していきたいと思っています。ミニツアー再開後、又皆様と一緒に活動することを楽しみにしております。

勝ち関橋ミニツアー担当 新井敏男

●ミニツアー代替案の概要

ミニツアーの一時中断に伴い、その代替として「隅田川著名橋等ツアー」を4月末から実施する予定です。その概要は以下のとおりです。

1. 前提方針

- ボランティア協会の社会貢献活動としてふさわしく、また対外的に協会活動としての社会的活動をアピールできるようなものとする。
- 現行のミニツアーの枠組みをもとに、活動人数、活動回数、活動費用が現行を上回らない程度とする。

2. 「隅田川著名橋等ツアー」(予定)の概要

(1) ツアー内容

橋の資料館で勝どき橋に係る説明の後、勝関橋を往復し、右岸上流部にある聖路加船着き場から公園協会の水上バス(定期便)に乗船し、隅田川の上流に向け、著名橋等橋梁群および水門等河川施設を船上から案内・説明し、浅草寺二天門前船着き場で下船。所要時間は12時集合、14時解散とし、概ね2時間の予定。(乗船時間は40分程度)

(2) 開催頻度・案内体制等

- ① 開催頻度: 月1回、年12回、毎月第4週目の木曜日。
- ② 参加者数: 最大15人。15人を3班に分けて案内。
- ③ 説明案内: ボラ協6名程度。ミニツアー担当会員60名が交代で対応。

3. その他

現在4月26日(木)に予定している第1回の

ツアー開催に向けて、配布用のマップ及び説明用のガイドブックを作成中です。また案内者のスキルアップのための研修会を去る3月20日(火)に実施しましたが、第2回目を4月19日(木)に予定しています。担当した会員ばかりでなく、今回は水門等の河川施設の説明も加わります。新たに参加を希望される会員はぜひ担当理事までご連絡下さい。

勝どき担当理事 林幹生

協会からのお知らせ

- ① 各班の活動報告をお待ちしています。下記編集担当理事又は林まで連絡願います。
林アドレス(mikio.hayashi@okumuragumi.jp)
- ② 協会のH. P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板)には、最新の情報、ニュースのバックナンバー、建設局報などが載っています。
アドレス(<http://tokyo-adv.info/>)

編集後記

前号では1頁目から「救命」が「究明」になるという、責任を糾明されかねない誤植があり、原因も解明できず、釈明の余地もなく、自らの不明を恥じ入るばかりです。お詫びします。今年度の最終号です。寄稿して頂いた方々に改めて御礼申し上げますと共に、今年度の反省を来年に活かして取り組みますのでよろしく願いいたします。

発行人 杉浦 浩

発行 東京都建設防災ボランティア協会

新宿区西新宿 2-7-1

小田急第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内

編集 高橋 紀男、林 幹生

堀内 康彦、丸岡 敏夫

